

02

地区公園のコンセプトの整理

コンセプトを考える上での視点

公園は、遊具を中心とした画一的な整備を進める時代から、利用者一人ひとりの多様な楽しみ方を大切にする時代へと変わってきています。

また、人口減少や高齢化を背景に、公園づくりは量の拡充から質の向上を重視する考え方へと移行しています。

さらに、公園はまちを形成する要素として、質の高い公共空間を提供し、人々の暮らしを豊かにする役割が期待されています。

こうした背景を踏まえ、本構想では、新たな時代に対応した地区公園を目指し、3つの視点をもとにコンセプトを検討しました。

視 点

地区公園に関連する
各種計画

P 9 - P 10

地区公園を中心
とした人々の動き

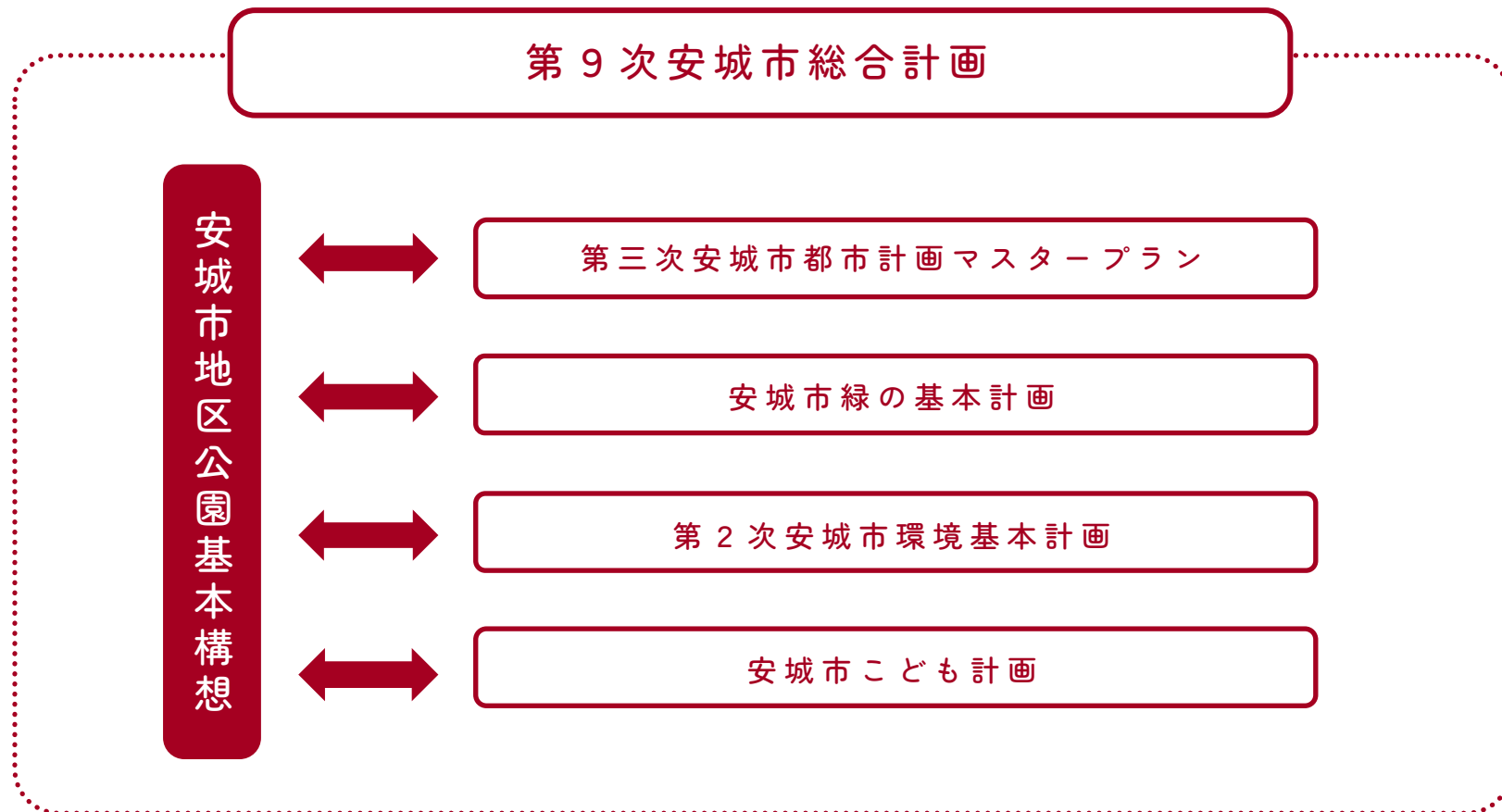
P 11 - P 14

今より利用したくなる
地区公園

P 15 - P 19

地区公園基本構想の位置づけ

第9次安城市総合計画に基づき、各種計画と連携しながら本構想を策定しました。



地区公園に関連する各種計画の視点に基づくコンセプト

第9次安城市総合計画	ともに育み、未来をつくる しあわせ共創都市
第三次安城市都市計画 マスタープラン	市民とともにつくり・つかう協創のまちづくり
安城市緑の基本計画	豊かな緑をはぐくむまち
第2次安城市環境基本計画	環境負荷の少ない、人と自然が共生しているまち
安城市こども計画	みんなでこどもたちを育み、応援するまち



(コンセプト) つねに変化し・成長しつづける

地区公園は、市民の多様なニーズや時代の変化に合わせて
つねに変化しながら、人々の活動を育み、
 市民とともに**成長しつづける**公園になることを目指します。

ふらっと立ち寄れる公園

現 状

- 地区公園にアクセスするためには、幹線道路や自転車道から直接入ることができないため、進路を変更する必要があります。
- 安城駅や新安城駅などの主要駅から地区公園（川島河川敷公園を除く）までは自転車で15分以内の距離ですが、公園内にはシェアサイクルポートがないため、駅と公園間の移動は不便です。

方 向 性

- 季節を感じる植栽やきれいで使いやすいトイレ、誰もが自由に利用できる給水スポット、鉄道利用者にも便利なシェアサイクルポートなどを公園内に整備し、わざわざ寄り道してでも行きたくなる公園を目指します。



まちめぐりの中心となる公園

現 状

- ・ 市内には、公共施設や名所旧跡などの観光・文化拠点は複数ありますが、地区公園とのつながりはほとんど見られません。

方 向 性

- ・ 地区公園が遊びに行く目的地としての役割だけでなく、公共施設や観光・文化拠点を巡る立ち寄り先としての役割を果たすことで、市内での楽しみ方を増やし、まちめぐりを促進するきっかけを作ります。



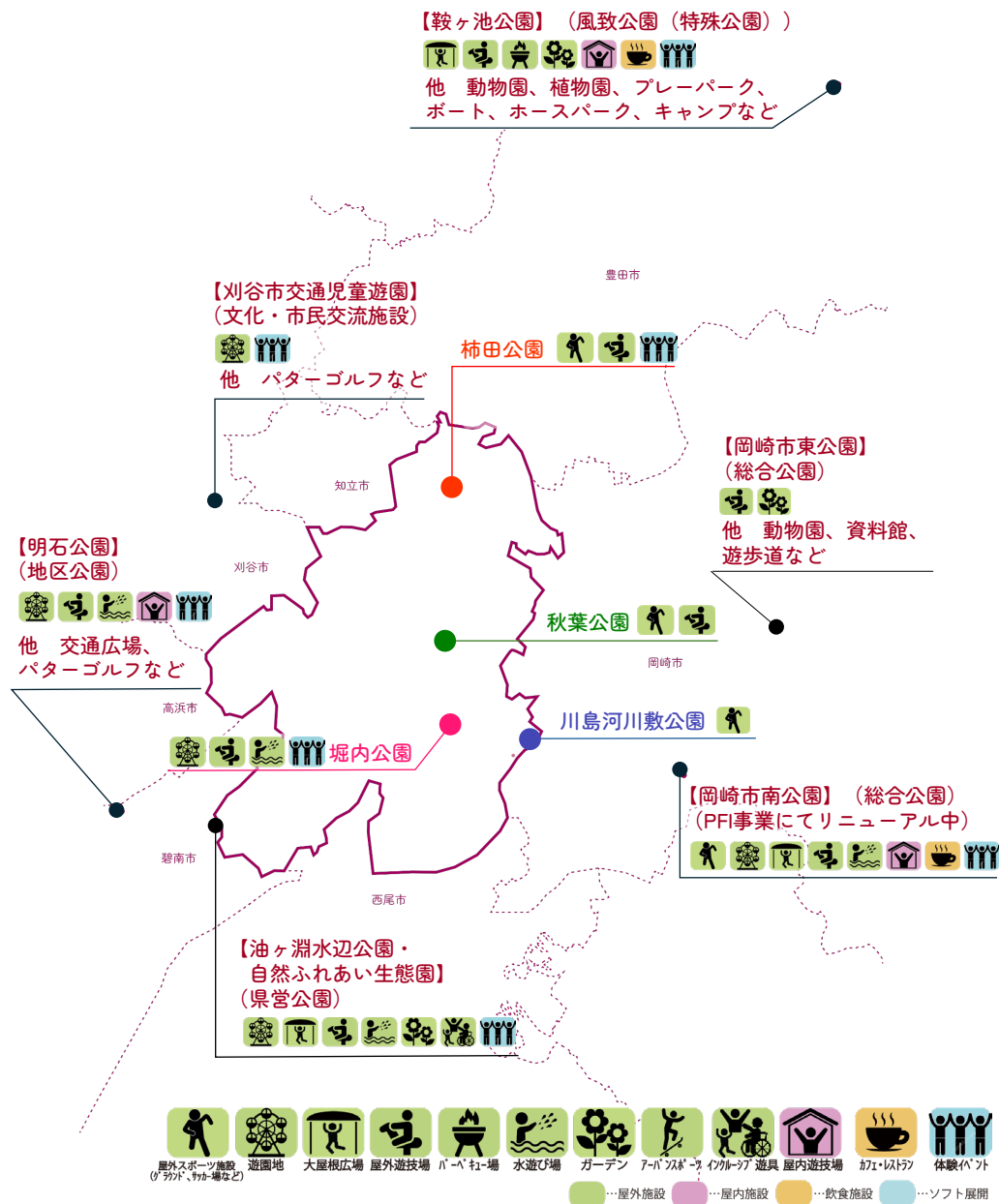
広域から人々が集まる公園

現状

- ・ 近隣市にも魅力的な公園が多くあります。利用者が多い公園には、大屋根広場やカフェなどの飲食施設、BBQ場など、安城市の地区公園にはない施設があります。

方向性

- ・ 各地区公園の個性を大切に、他の公園にはない楽しみ方を提供することで、市民が日常的に訪れたい公園を目指します。
- ・ また、広域からも「行ってみたい」と思う魅力ある公園を目指します。



地区公園を中心とした人々の動きの視点に基づくコンセプト

ふらっと立ち寄れる公園

現状

幹線道路や自転車道、駅からの
アクセスが不便なため
ふらっと立ち寄りにくい

方向性

季節毎の楽しみや休憩機能などを
充実させ、寄り道してでも
行きたいと思える公園を目指す

まちめぐりの中心となる公園

現状

市内に観光・文化拠点などは
複数あるが、地区公園との
つながりはほとんど見られない

方向性

地区公園を中心に市内での
楽しみ方を増やし、まちめぐりを
促進するきっかけをつくる

広域から人々が集まる公園

現状

近隣市の人気のある公園は
安城市にはない施設がある

方向性

地区公園の個性と魅力で
市内外から日常的に
訪れたい公園を目指す

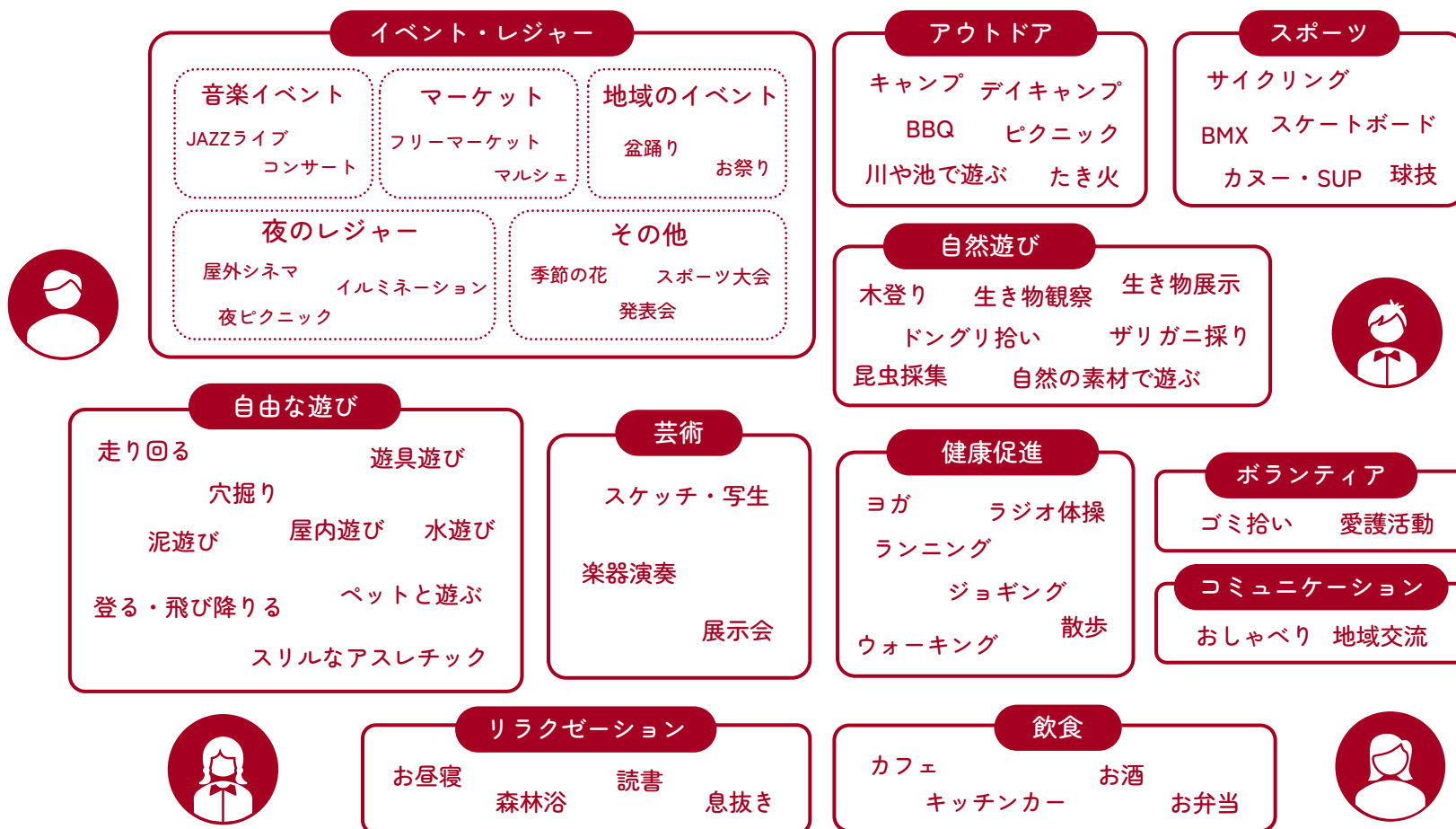


(コンセプト) 人や場所がつながり・使い方がひろがる

地区公園は、人や場所の**つながり**を生むきっかけとなり、
人の動きや公園の使い方が**ひろがる**ことで、
多くの人が集まり、交流し、共に楽しむ公園になることを目指します。

多様な活動ができる公園①

- ワークショップの意見から -

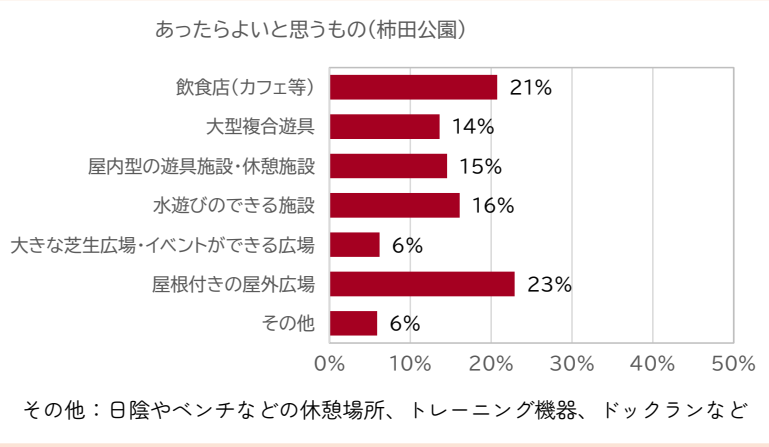


多様な活動ができる公園②

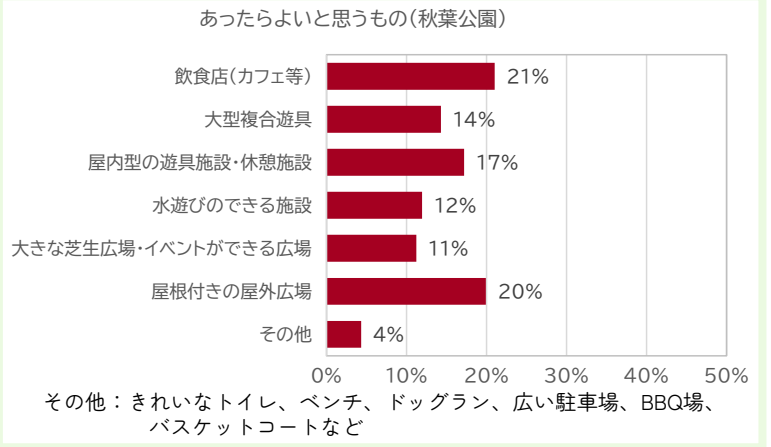
- 市民アンケートの意見から -

飲食店や屋根付き屋外広場の需要が高いことから、立ち寄るだけでなく、長時間滞在でき、雨天時や日差しの強い時にも快適に過ごせる環境が求められています。

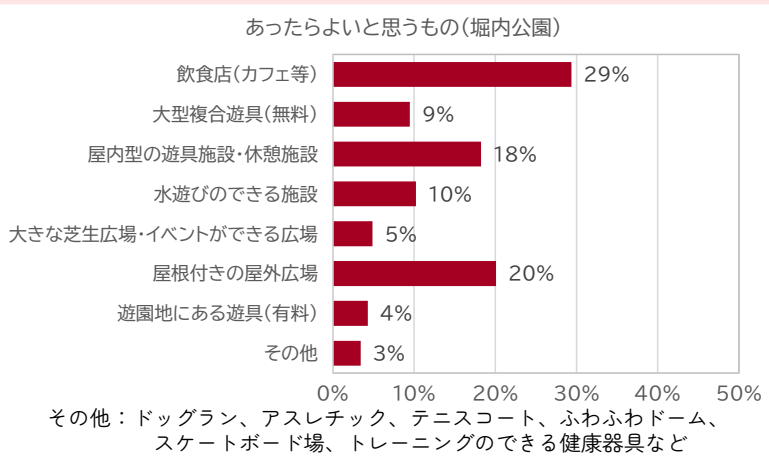
柿田公園
KAKITA PARK



秋葉公園
AKIBA PARK

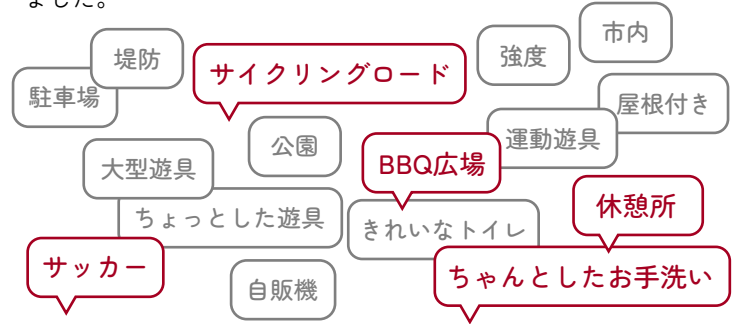


堀内公園
HORUUCHI PARK



川島河川敷公園
KAWASIMA KASENIKI PARK

*川島河川敷公園では、実現が難しい項目もあるため、選択式ではなく自由記述で書いてもらったところ、以下の回答がありました。



人々が集いたくなる公園

現 状

- 地区公園の利用は主に「子どもと遊ぶ」ことや「休息・リフレッシュ」が目的となっており、個人利用が多い状況です。
- 指定管理者によるイベントは行われていますが、地域との協働や民間事業者との連携など、幅広い活動は行われていません。

方 向 性

- 地域住民、NPO、民間事業者など多様な人々に働きかけ、地区公園での活動に関わってもらい、人が集まることで、公園ににぎわいが生まれ、公園とまちが活性化することを目指します。



まちと人に寄りそう公園

- 公園整備の先行事例から学ぶ -

POINT 01

公園と施設を一体的に使える



建物1階部分と公園の一体利用



公園に向けて開かれた建物

POINT 02

公園とまちをめぐりにぎわいをつくる



駅からまちへ人々を誘導する魅力的な歩行者空間の創出と「まち」を回遊するIKEBUSの導入



駅、商業施設、公園がつながり、バリアフリーで歩きやすい

POINT 03

公園とまちの境界がない



植栽や歩道を工夫して、公園とまちの境界を曖昧にすることで、連続性を高める



エントランスは開口部を大きくとり、歩道と公園がつながる空間をつくる

今より利用したくなる地区公園の視点に基づくコンセプト

多様な活動ができる公園

現状

地区公園での市民ニーズは
多種多様であるが
それに対応できていない

方向性

市民が求める多様な活動が
できる地区公園をつくる

人々が集いたくなる公園

現状

地域住民や民間事業者との協働
による活動が行われていない

方向性

多様な人々に働きかけ
一緒に公園で活動することにより
公園とまちの活性化につなげる

まちと人に寄りそう公園

現状

公園内の施設を中心に
整備を進めてきた

方向性

公園内に留まらず、
公園とまちの一体感を高める



(コンセプト) まちにひらかれ・とけこむ

地区公園は、市民の求める多様な活動を受け入れる場として
ひらかれ、まちや人の生活にとけこみ、
まち全体の魅力と価値を高める公園になることを目指します。

地区公園のコンセプト

つねに変化し・ 成長しつづける

地区公園は、市民の多様なニーズや時代の変化に合わせて
つねに変化しながら、人々の活動を育み、
市民とともに**成長しつづける**公園になることを目指します。

人や場所がつながり・ 使い方がひろがる

地区公園は、人や場所の**つながり**を生むきっかけとなり、
人の動きや公園の使い方が**ひろがる**ことで、
多くの人が集まり、交流し、共に楽しむ公園になることを
目指します。

まちにひらかれ・ とけこむ

地区公園は、市民の求める多様な活動を受け入れる場
として**ひらかれ**、まちや人の生活に**とけこみ**、
まち全体の魅力と価値を高める公園になることを目指します。